

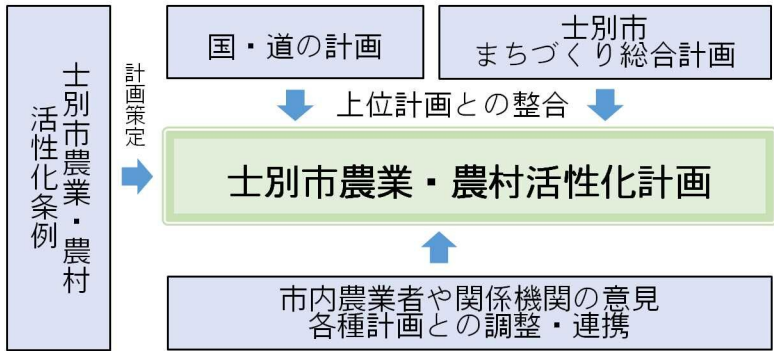
第5次士別市農業・農村活性化計画（案）の概要

－ 計画策定の趣旨 －

■近年の現況に対応し、豊かで魅力ある農業・農村をめざすため、市内農業者や関係機関の意見、国や道の計画を踏まえ、「第5次士別市農業・農村活性化計画」を策定。

－ 計画の位置付け －

■本計画は、本市の最上位計画である「士別市まちづくり総合計画」の分野別計画として、関連計画等との整合性を図りながら各種施策を総合的かつ計画的に推進するもの。



－ 計画の期間 －

■本計画は、士別市まちづくり総合計画の実行計画と同様の期間とする。

令和8(2026)年～令和11(2029)年までの4年間

－ 現状と課題 －

■国際情勢の不安定化や気候変動、国の政策などにより、農業をとりまく情勢が大きく変化している。

■市内では農業経営者の高齢化と後継者不足による農家戸数の減少が続いている。

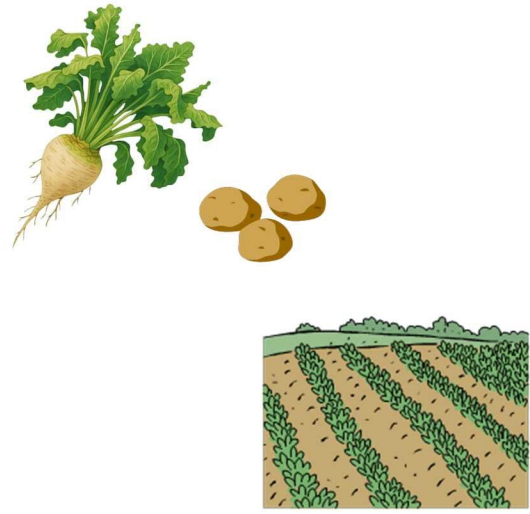
■経営規模の拡大や生産性の向上は図られているものの、物価高騰による資材価格の高騰、病害虫や有害鳥獣による被害など、外的要因への対応が求められている。

■農家戸数の減少は、集落機能の低下や労働力不足を招き、農畜産物の安定供給と自然環境の保全の持続に影響する。

基本目標

豊かで魅力ある農業・農村をめざして

持続可能で地域に根ざした農業の継続的な発展と活力にあふれた豊かで住みよい農村の創造を通じて、次世代に誇れる魅力ある農業・農村の実現を図る。

施策の柱 1	人づくり ～次世代につなぐ～	施策の柱 2	土づくり ～収量アップにつなぐ～	施策の柱 3	持続可能な生産体制 ～未来につなぐ～
【めざす姿】 本市農業の担い手となる人材の育成と、魅力的な農村環境の整備を一体的に進めることで、「人と農村が共に育つ」持続可能な農業・農村の実現をめざす。 <u>1 担い手の確保・育成</u> (1) 新規就農者確保のための情報発信 (2) 農業研修者・新規就農者への支援 <u>2 農作業の負担軽減・経営の効率化</u> (1) 農作業の負担軽減に向けた取り組み (2) 担い手への農地集積・集約化 <u>3 農業・農村の有する多面的機能の維持</u> (1) 共同取り組みによる農村環境の維持 (2) 農業用施設等の適正管理・計画的な保全 <u>4 農業・農村への理解</u> (1) 地産地消の普及啓発 <u>5 鳥獣被害対策の推進</u> (1) 鳥獣による被害防止等		【めざす姿】 農作物の収量と品質の安定を図るため、持続的な農業生産と環境保全を支え、地力の維持・向上に欠かせない「土づくり」の実現をめざす。 <u>1 農作物の安定生産</u> (1) 輪作体系の確立 <u>2 環境保全型農業の推進</u> (1) 環境負荷低減に配慮した農業の確立 		【めざす姿】 将来にわたって安定的かつ継続的に農業生産を支える仕組みや効率的な生産体制の実現をめざす。 <u>1 生産基盤の整備による安定的な農作物生産の確立</u> (1) 基盤整備事業の推進 (2) 作業の効率化・省力化に向けたスマート農業の推進 <u>2 農作物の栽培技術の向上</u> (1) 栽培技術等の普及・推進 <u>3 効率的な生産体制の推進</u> (1) 生産施設等の機能強化 <u>4 収益力・生産基盤の強化による畜産経営基盤強化</u> (1) 施設整備・自給粗飼料生産拡大・家畜伝染病対策の推進 	

「豊かで魅力ある農業・農村をめざして」を達成するための数値目標

施策の柱	目標	現状値 R7年(2025)	目標値	R8年(2026)	R9年(2027)	R10年(2028)	R11年(2029)
人づくり	新規就農者確保数	9 人	20 人	5 人	5 人	5 人	5 人
土づくり	根菜類作付け面積 (てん菜・馬鈴薯)	てん菜 540 ha 馬鈴薯 139 ha 計 679 ha	てん菜 600 ha 馬鈴薯 150 ha 計 750 ha	てん菜 550 ha 馬鈴薯 140 ha 計 690 ha	てん菜 560 ha 馬鈴薯 140 ha 計 700 ha	てん菜 580 ha 馬鈴薯 150 ha 計 730 ha	てん菜 600 ha 馬鈴薯 150 ha 計 750 ha
持続可能な生産体制	中士別地区基盤整備面積	全体 486 ha	193 ha	72 ha	53 ha	20 ha	48 ha
	成雌めん羊飼養頭数	700 頭	740 頭	713 頭	723 頭	733 頭	740 頭